

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年2月9日
【四半期会計期間】	第93期 第3四半期 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)
【会社名】	マックス株式会社
【英訳名】	MAX CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小川辰志
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋箱崎町6番6号
【電話番号】	東京(03)3669-0311(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 北谷明雄
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋箱崎町6番6号
【電話番号】	東京(03)3669-0311(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 北谷明雄
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第92期 第3四半期連結 累計期間	第93期 第3四半期連結 累計期間	第92期
会計期間		自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2023年4月1日 至 2023年12月31日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高	(百万円)	63,880	65,332	84,316
経常利益	(百万円)	8,249	10,463	10,510
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	5,871	7,989	7,619
四半期包括利益 又は包括利益	(百万円)	7,302	10,420	8,797
純資産額	(百万円)	87,410	93,397	88,906
総資産額	(百万円)	114,191	119,093	116,742
1株当たり四半期 (当期)純利益	(円)	124.13	169.94	161.07
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	76.5	78.3	76.1
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	5,027	8,651	8,248
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	572	3,269	1,085
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	3,225	6,429	3,332
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	24,215	26,795	26,987

回次		第92期 第3四半期連結 会計期間	第93期 第3四半期連結 会計期間
会計期間		自 2022年10月1日 至 2022年12月31日	自 2023年10月1日 至 2023年12月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	36.84	51.38

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は653億3千2百万円で、前年同四半期と比べ14億5千1百万円(+2.3%)の増収、営業利益は98億7千9百万円で、前年同四半期と比べ22億8千4百万円(+30.1%)の増益、経常利益は104億6千3百万円で、前年同四半期と比べ22億1千4百万円(+26.8%)の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は79億8千9百万円で、前年同四半期と比べ21億1千7百万円(+36.1%)の増益となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

(a) オフィス機器部門

「国内オフィス事業」は、前年上期に発生していた電子部品不足の解消により、チューブマーカ「レタツイン」が堅調に推移したことに加え、表示作成機「ピーポップ」の消耗品の販売が増加しました。

「海外オフィス事業」は、取引先の在庫調整の影響で文具関連製品の販売が引き続き低迷したほか、中国市場の落ち込みによりチューブマーカ「レタツイン」の販売が減少しました。

「オートステープラ事業」は、第3四半期は取引先からの受注が回復基調となり、機械・消耗品の販売が堅調に推移しました。

この結果、売上高は156億4千2百万円で、前年同四半期と比べ7億4百万円(-4.3%)の減収、セグメント利益は29億3百万円で、前年同四半期と比べ4億2千7百万円(-12.8%)の減益となりました。

(b) インダストリアル機器部門

「国内機工品事業」は、コンクリート着工床面積の減少があったものの、12月に発売した鉄筋結束機の新製品「ツインタイヤ RB-442T」により、第3四半期は機械の販売が増加しました。また、主力のエアコンプレッサの販売が好調に推移しました。

「海外機工品事業」は、北米では非住宅市場に対する建設支出の増加と大型展示会に向けたプロモーションの実施などにより、鉄筋結束機「ツインタイヤ」の消耗品の販売が堅調に推移しました。一方で、欧州では建築市場の景況感が悪化し、機械の販売が減少しました。

「住環境機器事業」は、主力の浴室暖房換気乾燥機「ドライファン」の販売が、注力しているリフォーム・リプレイスのストック市場で引き続き伸長しました。

この結果、売上高は472億3千6百万円で、前年同四半期と比べ20億6千8百万円(+4.6%)の増収、セグメント利益は99億2千6百万円で、前年同四半期と比べ29億3千6百万円(+42.0%)の増益となりました。

(c) HCR機器部門

レンタル市場における主要取引先への車いすの採用活動の推進により、増収となりました。

この結果、売上高は24億5千3百万円で、前年同四半期と比べ8千8百万円(+3.7%)の増収、セグメント損失は1千7百万円で、前年同四半期と比べ1億3千6百万円の増益となりました。

財政状態の分析

資産の部は、前連結会計年度末に比べ、23億5千万円増加し、1,190億9千3百万円となりました。流動資産については、現金及び預金が9億1千2百万円、受取手形及び売掛金が5億1千6百万円、原材料が3億2千5百万円増加したことなどにより、19億4千7百万円増加しました。固定資産については、投資有価証券が4億3千9百万円増加したことなどにより、4億3百万円増加しました。

負債の部は、前連結会計年度末に比べ、21億4千万円減少し、256億9千6百万円となりました。流動負債については、未払法人税等が17億9千1百万円減少したことなどにより、15億3千8百万円減少しました。固定負債については、退職給付に係る負債が5億1千5百万円減少したことなどにより、6億1百万円減少しました。

純資産の部は、前連結会計年度末に比べ、44億9千万円増加し、933億9千7百万円となりました。株主資本は、剰余金の配当が36億8千9百万円、自己株式の取得24億3千2百万円などがありましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益が79億8千9百万円あったため、20億6千1百万円の増加となりました。

その他の包括利益累計額については、為替換算調整勘定が15億5千6百万円増加したことなどにより、24億2千6百万円増加しました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)の残高は、現金及び現金同等物の増減額が1億9千2百万円減少したことにより、267億9千5百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加は、86億5千1百万円となりました。主な増加は税金等調整前四半期純利益が104億8千4百万円、減価償却費が22億5千9百万円、一方で主な減少は、法人税等の支払額が41億8千万円、賞与引当金の増減額が10億9千6百万円です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少は、32億6千9百万円となりました。主な減少は、有価証券及び投資有価証券の取得による支出が48億7百万円、有形固定資産の取得による支出が21億4千3百万円、一方で主な増加は、有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入が49億8千4百万円です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少は、64億2千9百万円となりました。主な減少は、配当金の支払額が36億8千6百万円、自己株式の取得による支出が24億3千2百万円です。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は32億9千9百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	145,983,000
計	145,983,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2023年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2024年2月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	47,537,426	47,537,426	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数は100株でありま す。
計	47,537,426	47,537,426		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2023年12月31日		47,537,426		12,367		10,517

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2023年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 708,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 46,752,200	467,522	同上
単元未満株式	普通株式 77,226		同上
発行済株式総数	47,537,426		
総株主の議決権		467,522	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式45株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) マックス株式会社	東京都中央区日本橋箱崎 町6番6号	708,000		708,000	1.49
計		708,000		708,000	1.49

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成していません。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2023年10月1日から2023年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,615	28,528
受取手形及び売掛金	14,720	2 15,237
有価証券	6,203	6,498
商品及び製品	11,070	10,549
仕掛品	989	1,166
原材料	1,806	2,131
その他	1,287	1,527
貸倒引当金	4	4
流動資産合計	63,688	65,636
固定資産		
有形固定資産	26,017	26,229
無形固定資産	454	502
投資その他の資産		
投資有価証券	20,701	21,141
その他	5,890	5,593
貸倒引当金	9	9
投資その他の資産合計	26,582	26,725
固定資産合計	53,054	53,457
資産合計	116,742	119,093
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,204	4,007
短期借入金	1,850	1,750
未払法人税等	2,378	587
賞与引当金	2,622	1,531
役員賞与引当金	80	81
製品保証引当金	154	200
その他の引当金	-	26
資産除去債務	-	5
その他	4,370	5,931
流動負債合計	15,660	14,121
固定負債		
長期借入金	125	125
製品保証引当金	15	17
退職給付に係る負債	10,669	10,153
資産除去債務	141	116
その他	1,224	1,162
固定負債合計	12,176	11,574
負債合計	27,836	25,696

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,367	12,367
資本剰余金	10,517	10,535
利益剰余金	63,521	67,820
自己株式	414	2,670
株主資本合計	85,992	88,054
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,547	2,152
土地再評価差額金	339	339
為替換算調整勘定	2,854	4,411
退職給付に係る調整累計額	1,260	995
その他の包括利益累計額合計	2,802	5,228
非支配株主持分	110	113
純資産合計	88,906	93,397
負債純資産合計	116,742	119,093

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	63,880	65,332
売上原価	36,517	35,240
売上総利益	27,363	30,092
販売費及び一般管理費		
給料	4,537	4,664
賞与引当金繰入額	959	916
役員賞与引当金繰入額	61	81
退職給付費用	496	604
荷造発送費	3,833	2,446
販売促進費	1,048	1,115
減価償却費	837	889
その他	7,994	9,494
販売費及び一般管理費合計	19,768	20,212
営業利益	7,595	9,879
営業外収益		
受取利息	66	129
受取配当金	163	174
為替差益	352	210
その他	134	115
営業外収益合計	717	629
営業外費用		
支払利息	32	27
その他	29	17
営業外費用合計	62	44
経常利益	8,249	10,463
特別利益		
固定資産売却益	5	1
投資有価証券売却益	9	69
特別利益合計	14	70
特別損失		
固定資産売却損	-	0
固定資産廃棄損	38	50
投資有価証券売却損	-	0
減損損失	47	-
特別損失合計	85	50
税金等調整前四半期純利益	8,178	10,484
法人税等	2,302	2,492
四半期純利益	5,876	7,991
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,871	7,989

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	5,876	7,991
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	504	605
為替換算調整勘定	743	1,558
退職給付に係る調整額	177	265
その他の包括利益合計	1,425	2,428
四半期包括利益	7,302	10,420
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,294	10,415
非支配株主に係る四半期包括利益	7	4

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	8,178	10,484
減価償却費	2,214	2,259
減損損失	47	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
賞与引当金の増減額(は減少)	363	1,096
役員賞与引当金の増減額(は減少)	11	1
製品保証引当金の増減額(は減少)	27	47
その他の引当金の増減額(は減少)	-	26
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	219	174
受取利息及び受取配当金	230	303
支払利息	32	27
為替差損益(は益)	288	254
固定資産廃棄損	38	50
固定資産売却損益(は益)	5	1
投資有価証券売却損益(は益)	9	69
従業員預り金の増減額(は減少)	476	737
売上債権の増減額(は増加)	1,092	287
棚卸資産の増減額(は増加)	2,270	531
仕入債務の増減額(は減少)	490	239
未収消費税等の増減額(は増加)	639	116
未払消費税等の増減額(は減少)	51	315
その他の資産の増減額(は増加)	454	176
その他の負債の増減額(は減少)	539	562
小計	7,654	12,556
利息及び配当金の受取額	251	302
利息の支払額	31	27
法人税等の支払額	2,847	4,180
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,027	8,651
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	433	1,441
定期預金の払戻による収入	638	345
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	1,404	4,807
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	3,418	4,984
有形固定資産の取得による支出	2,631	2,143
有形固定資産の除却による支出	29	10
有形固定資産の売却による収入	6	2
無形固定資産の取得による支出	156	176
貸付けによる支出	-	40
貸付金の回収による収入	27	18
資産除去債務の履行による支出	7	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	572	3,269

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
借入金の返済による支出	-	100
自己株式の取得による支出	0	2,432
自己株式の処分による収入	-	0
配当金の支払額	3,024	3,686
非支配株主への配当金の支払額	-	1
リース債務の返済による支出	200	209
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,225	6,429
現金及び現金同等物に係る換算差額	550	855
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,780	192
現金及び現金同等物の期首残高	22,435	26,987
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,215	26,795

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	
税金費用の計算	
税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。	

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高及び輸出手形割引高

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
受取手形割引高	148百万円	328百万円
輸出手形割引高		27

- 2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。
なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高及び上記1受取手形割引高に含まれております。

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
受取手形	百万円	210百万円
割引手形		147

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
現金及び預金	24,876百万円	28,528百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	660	1,732
現金及び現金同等物	24,215百万円	26,795百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	3,027	64	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月28日 定時株主総会	普通株式	3,689	78	2023年3月31日	2023年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	合計
	オフィス機器	インダストリアル機器	H C R 機器		
売上高					
外部顧客への売上高	16,346	45,168	2,365		63,880
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	16,346	45,168	2,365		63,880
セグメント利益又は損失()	3,331	6,989	153	2,571	7,595

(注) 1. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. セグメント利益の調整額 2,571百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,571百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

将来の使用が見込めなくなった遊休資産の減損損失47百万円を計上しております。

内訳は、「オフィス機器」セグメントにおいて0百万円、「インダストリアル機器」セグメントにおいて47百万円です。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	合計
	オフィス機器	インダストリアル機器	H C R 機器		
売上高					
外部顧客への売上高	15,642	47,236	2,453		65,332
セグメント間の内部売上高 又は振替高					
計	15,642	47,236	2,453		65,332
セグメント利益又は損失()	2,903	9,926	17	2,932	9,879

(注) 1. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. セグメント利益の調整額 2,932百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 2,932百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(収益認識関係)

当社グループの売上高は、顧客との契約から認識された収益であり、当社グループの報告セグメントを地域別及び収益の認識時期に分解した場合の内訳は、以下のとおりです。

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	オフィス機器	インダストリアル機器	H C R 機器	
地域別				
日本	7,917	23,977	2,277	34,171
アジア	6,707	992	88	7,788
ヨーロッパ・豪州	1,405	9,032		10,437
北米・中南米	316	11,166		11,483
外部顧客への売上高	16,346	45,168	2,365	63,880
財又はサービスの移転時期				
一時点	16,346	45,168	2,365	63,880
一定の期間				
外部顧客への売上高	16,346	45,168	2,365	63,880

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	オフィス機器	インダストリアル機器	H C R 機器	
地域別				
日本	7,846	24,988	2,249	35,084
アジア	6,048	920	203	7,172
ヨーロッパ・豪州	1,417	9,076		10,493
北米・中南米	329	12,252		12,581
外部顧客への売上高	15,642	47,236	2,453	65,332
財又はサービスの移転時期				
一時点	15,642	47,236	2,453	65,332
一定の期間				
外部顧客への売上高	15,642	47,236	2,453	65,332

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
1株当たり四半期純利益	124円13銭	169円94銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	5,871	7,989
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	5,871	7,989
普通株式の期中平均株式数(株)	47,302,387	47,011,217

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年2月9日

マックス株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

北関東事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 関 口 男 也

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 筑 紫 徹

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているマックス株式会社の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年10月1日から2023年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、マックス株式会社及び連結子会社の2023年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。